

普及活動情勢報告（平成29年6月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

環境制御技術の普及への取り組み！・・・幡多地区環境制御研究会・・・	
	5月26日、中村合同庁舎3階会議室で、幡多地区環境制御研究会総会と研修会を開催しました。 農業改良普及課は、総会・研修会の全体的なコーディネートやアドバイスをを行い、開催と進行の支援をしました。総会では、新たに「小分科会（案）」を提案し、課題に対応するために少人数で活動していく方針が新たに決定されました。研修会では新田専門技術員による講演の後、研究会役員3名と専門技術員2名で座談会を行い、環境制御技術導入に関する期待と不安を会場全体で共有しました。 農業改良普及課は今後も適宜アドバイスをを行い、研究会活動を支援します。
集落でビジョン作り・・・富山活性化協議会・・・	
	6月15日、富山中央地区で集落のビジョンづくりを行うため、住民10名が参加し、ワークショップを行いました。 農業改良普及課はコーディネイト役となり、集落の担い手、農地、環境、農業、施設、機械などの項目について、課題や将来の目標、目標達成のための手段・方法について話し合いました。 参加者からは「改めて集落の将来について考えることができてよかった」「年齢層を分けて意見出しをしたことで、世代別の意見が聞けてよかった」との声が聞かれました。 農業改良普及課は、今回の意見をまとめて、集落で取り組む今後の方向性を明確化していきます。
I P M技術の普及に向けて・・・JA 高知はた三崎支所キュウリ部会・・・	
	5月24日、土佐清水市のほ場で、キュウリ生産者6名とJA営農指導員1名で天敵昆虫タバコカスミカメの温存ハウスの整備を行いました。草刈りや灌水チューブの設置を行い、温存植物となるクレオメとゴマを100株程度定植しました。 今作は害虫のアザミウマ類の発生が多かったこともあり、参加者からは「薬剤散布だけではダメ」、「天敵を定植直後から放飼したい」との声が挙がりました。 農業改良普及課は、本ぽへの放飼タイミングや放飼後の害虫防除管理方法について講習会を開催し、周知徹底していきます。

すみれ保育園で畑作り・・・宿毛4Hクラブ・・・



5月23日、宿毛4Hクラブ員3名は、宿毛市すみれ保育園で、園児4名を対象として畑作りを行いました。園児とクラブ員と一緒に耕うん、畦立てを行い、サツマイモ、キュウリ、スイカ、トマトの苗を定植しました。



園児からは「大きくなるのが楽しみ」、クラブ員からは「今後も子供たちに地域の農業について知ってもらいたい」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、食農教育に力を入れる宿毛4Hクラブの活動を今後も支援していきます。

環境直接支払交付金の申請に向けて・・・J A高知はた宿毛支所オクラ部会勉強会・・・



6月15日、J A高知はた宿毛支所で、部会の若手生産者6名を対象に環境直接支払交付金について勉強会を開催しました。

農業改良普及課からは、インセクタリープランツや、エコファーマーについて情報提供しました。また肥料に関する基礎的な内容や化学肥料由来の窒素成分5割減達成のための施肥設計について説明しました。

参加者からは、「施肥量を減らすことで減収になるのではないか」という声も聞かれましたが、産地を守るために実証も行いながら、交付金の申請に向けて取り組んでいくことになりました。

農業改良普及課は、今後もエコファーマー申請や実証ほ設置に向けた取り組みを支援していきます。

おかずみそ「鯖ねえ」本格稼働に向けて・・・6次産業化支援チーム・・・



5月31日、佐賀北部集落活動センターで、8名が参加して、6次産業化普及活動推進事業を活用し、商品開発と販売に取り組む黒潮町佐賀北部活性化推進協議会食部会のチーム会を開催しました。

チーム会では、平成28年度の活動実績を報告後、今年度の活動計画を再確認しました。今年度の活動として、グループ員の資質向上と併せて、既存商品の県域流通及び新たな商品開発に向けて検討していきます。松田アドバイザーからは、ふるさと納税の返礼品の見せ方や流通時の注意点について助言がありました。

農業改良普及課は、今後もアドバイザーと連携し、商品開発や販売拡大に向けて支援を行います。

ミョウガの収量アップに向けて・・・JA 高知はたミョウガ部会視察研修・・・



5月19日、ミョウガ部会の若手生産者7人が農業技術センターと担い手育成センターで、視察研修を行いました。

農業技術センターでは、ミョウガの「水やけ症」の原因と対策、新系統「江ノ村」の生育状況について説明を受け、担い手育成センターでは環境制御下での密植栽培試験の様子を見学し、意見交換を行いました。

農業改良普及課からは、環境条件の把握と環境制御の必要性を紹介しました。参加者は、生育促進や病虫害管理に環境制御技術が有効なことを実感し、関心が高まった様子でした。

農業改良普及課は、環境測定実施農家を増やし、測定データの共有ができる体制づくり、収量アップを目指して取り組みを進めていきます。

ユズ産地の強化に向けて・・・三原村ユズ産地化意見交換会・・・



5月26日、三原村農業構造改善センターで、ユズの産地化に関する意見交換会を開催し、関係者22名が参加しました。

農業改良普及課は、県内ユズ産地の近年の取り組み内容について情報提供し、三原村、農業公社からは、今年度の取り組み内容について説明がありました。

参加者からは、「三原は産地規模の拡大を目指しているが、販売面の心配はないか？」と先行きに心配する声も聞かれましたが、産地毎の特色が違うことや三原村の強みを共有したことで、関係者の不安が解消されると共に取り組み意欲が高まりました。

農業改良普及課は、今後集出荷体制の強化と、所得向上を目指して、支援していきます。